

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成 28 年 2 月解析分)

1 今月のトピックス

(1) 子ども予防接種週間について

平成 28 年 3 月 1 日(火)から 3 月 7 日(月)は子ども予防接種週間です。
4 月からの入園・入学に備え、必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう！

- 予防接種に関する質問は、かかりつけ医に御相談ください。
- 予防接種が受けられる医療機関については、お住まいの市町の予防接種担当課へお問合せください。
- 予防接種を希望される方は、医療機関へ事前に予約しましょう。

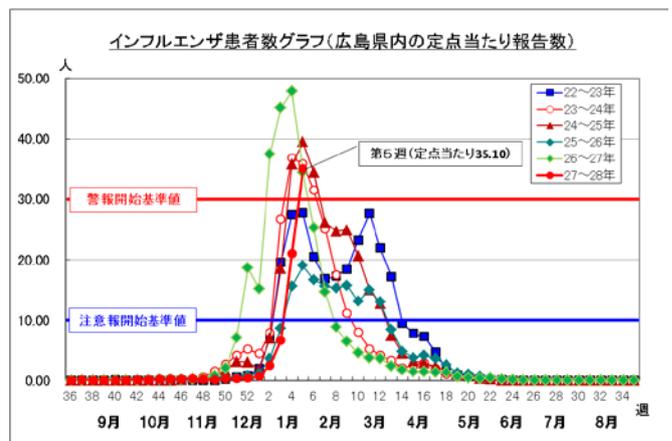
(2) インフルエンザの流行状況について

インフルエンザの定点医療機関 (115 医療機関) から
の報告患者数が、平成 27 年 12 月の 199 人から平成 28
年 1 月は 3,538 人と急増しました。

また、平成 28 年第 4 週 (1 月 25 日～31 日) には、
西部東及び広島市の保健所管内で警報開始基準値 (定
点当たり 30) を上回り、インフルエンザの流行が本格
的になったと考えられるため、平成 28 年 2 月 3 日、県
内に「インフルエンザ警報」を発令しました。

1 月中旬から、インフルエンザ様疾患による学級閉
鎖等の報告も急増しており、しばらくは県内の流行が
続くものと思われますので、引き続き、「手洗い」や「咳
エチケット」などの感染予防・感染拡大防止対策の徹
底をお願いします。

インフルエンザ警報発令中!!



(3) ジカウイルス感染症について

ブラジルなど中南米を中心に、「ジカウイルス感染症」が流行しています。近年、ブラジルにおいて小頭症の新生児が増えており、「ジカウイルス感染症」との関連が示唆されています。

このため、妊娠中の方又は妊娠を予定している方の流行地域への渡航は、可能な限り控えたほうが良いとされています。やむを得ず渡航する場合には、厳密な防蚊対策を講じ、蚊に刺されないように注意しましょう。

病原体	フラビウイルス科フラビウイルス属に属するジカウイルス
症状	・軽度の発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛、関節痛、倦怠感、頭痛などが主な症状です。 ・これらの症状は軽く、通常、2～7日続き、予後は比較的良好です。
治療	・対症療法となります。 ・通常は比較的症状が軽く、特別な治療を必要としません。
感染経路	・ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することで感染します。 ・潜伏期間は、2～12日 (多くは2～7日) です。 ・基本的に、感染したヒトから他のヒトに直接感染することはありませんが、極めて稀なケースとして、献血や性交渉による感染が指摘されています。 ・感染しても全員が発症するわけではなく、症状がないか症状が軽いため気づかないこともあります。

○ 医療機関の皆様へ

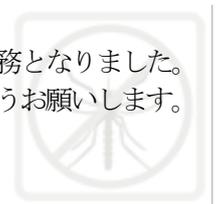
ジカウイルス感染症は、感染症法上の四類感染症に指定され、2 月 15 日から医師の届出が義務となりました。ジカウイルス感染症と診断した場合には、直ちに、最寄りの保健所に届け出ていただきますようお願いいたします。

○ 詳しくは、厚生労働省、国立感染症研究所などのホームページをご覧ください。



(例) ジカウイルス 厚生労働省 Q&A

検索



2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成28年1月分(平成28年1月4日～平成28年1月31日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	3,538	7.76	20.52	↑	11	ヘルパンギーナ	7	0.02	0.02	
2	RSウイルス感染症	207	0.73	0.92	↓	12	流行性耳下腺炎	247	0.87	0.55	→
3	咽頭結膜熱	122	0.43	0.60	↔	13	急性出血性結膜炎	2	0.03	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	600	2.11	1.52	↔	14	流行性角結膜炎	71	0.93	0.73	→
5	感染性胃腸炎	2,161	7.61	9.28	↔	15	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
6	水痘	140	0.49	1.25	→	16	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.03	
7	手足口病	12	0.04	0.14	↓	17	マイコプラズマ肺炎	50	0.60	0.20	↔
8	伝染性紅斑	349	1.23	0.13	↔	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	93	0.33	0.42	↔	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	29	0.35	—	↔
10	百日咳	6	0.02	0.02							

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成28年1月分(1月1日～1月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	58	2.52	1.95	↔	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	76	3.62	5.23	→
21	性器ヘルペスウイルス感染症	25	1.09	0.76	↔	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	11	0.52	0.73	↑
22	尖圭コンジローマ	14	0.61	0.58	↔	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	3	0.14	0.09	
23	淋菌感染症	17	0.74	0.99	→						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

発生記号(前月と比較)

急増減疾患!!(定点当たり前比2倍以上増減)

- 急増疾患 インフルエンザ (0.43 → 7.76)
- 急増疾患 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (0.24 → 0.52)
- 急減疾患 RSウイルス感染症 (1.52 → 0.73)
- 急減疾患 手足口病 (0.15 → 0.04)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↔	↔	1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患,月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	32	結核(32)〔西部保健所(3), 東部保健所(3), 北部保健所(2), 広島市保健所(16), 呉市保健所(3), 福山市保健所(5)〕
三類	0	発生なし
四類	5	A型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕, デング熱(3)〔東部保健所(1), 広島市保健所(1), 呉市保健所(1)〕, レジオネラ症(1)〔福山市保健所(1)〕
五類全数	22	アメーバ赤痢(1)〔広島市保健所(1)〕, ウイルス性肝炎(A,E型を除く)(2)〔東部保健所(1), 広島市保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(4)〔広島市保健所(2), 福山市保健所(2)〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔広島市保健所(1)〕, ジアルジア症(1)〔西部東保健所(1)〕, 急性脳炎(1)〔広島市保健所(1)〕, 後天性免疫不全症候群(3)〔広島市保健所(3)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(4)〔広島市保健所(1), 福山市保健所(3)〕, 播種性クリプトコックス症(1)〔西部東保健所(1)〕, 梅毒(4)〔広島市保健所(3), 福山市保健所(1)〕